

1. 研究目的

現状として、ミッションスクールには、カトリックの信者ではない人が多く通っている。実際、サレジオ高専では全学生789名のうち、カトリックの信者はわずか20名であり、これは全学生の3%にすぎない。多くの学生がカトリックのことを何も知らないままに、ミサに参加したり、祈りを唱えたりする現状に違和感を覚え、学生にもっとカトリックについての知識をもってほしいと考えた。

よって本研究の目的は、キリスト教カトリックの基礎知識を身につけることであり、この目的を達成することで、ミッションスクールに通う学生として、正しく建学の精神を学ぶことができるものとする。

2. 調査と分析

(1) 既存の書籍の調査

カトリックについて説いている既存の書籍を調査した結果、「神とはなにか?」「ミサとはなにか?」というようなカトリックの基礎を解説しているものが多いことが分かった。紙面は文字ばかりで、写真はあってもモノクロの場合が多く、具体的なイメージがしづらいものが多かった。

(2) 聞き取り調査

上記で調査した書籍を手にとってもらい、感想を聞かせてもらった。一番多かったのは「読む気がしない」、その次に多かったのは「堅苦しい」という声だった。

3. コンセプトの立案

コンセプト「親しみやすく わかりやすく」

前述の調査結果から「いかに制作物に対する読者の興味をひくか」ということが最も重要な点だと考え、このコンセプトを立案した。「手に取ってもらえる」ということに留まらず、思わずページをめくってしまうようなデザイン表現を目指した。

4. デザイン展開

制作にあたって、以下の条件を設定し、コンセプトの実現を図った。

- (1) 写真やイラストを多用し、視覚的にわかりやすくする。
- (2) キャラクターを設定し、ストーリー性を持たせることで、内容への導入を図る。
- (3) コラムをつくり、紙面の中に読ませるポイントをつくる。

またこれを受けて、制作物のサイズは、イラストを大きく表示できるようにA4サイズとした。対象者は、ミッションスクールに通う中学・高校の生徒で、内容はそれに伴い、ミッションスクールでの生活で触れる身近なカトリックの「もの」や「こと」について、項目ごとに解説するものである。

5. 完成図



6. 結論(推論)

ミッションスクールに通う中学・高校の生徒複数人に、制作物を実際に読んでもらい、その感想を聞くという検証方法を予定している。

推論としては、紙面も大きく、イラストや写真も多用したため、既存の書籍に比べ、格段に読みやすくなっているだろうと考えている。しかし、内容に興味を持ってもらうことはなかなか難しく、ページはめくってもらえても、斜め読みする人も多くいるだろう。「宗教」ということで、ある程度理解に限界はあるものの、この冊子を通して、今まで誤認していた知識を正し、新しく知ることを少しでも記憶にとどめていただけたら幸いである。

文献

- [1] サンパウロ(編),『イラストで知るカトリック教会』,サンパウロ,1999
- [2] 山本道生(編),『知っておきたい!教会の基本』,樫出版社,2013
- [3] みやしたはんな,『らみいちゃんの聖書人物伝「この人だあ〜れ?」』,いのちのこば社,1997
- [4] ガエタノ・コンプリ,『はじめて教会へいらしたあなたに—カトリック教会のごあんない』,ドン・ボスコ社,1988
- [5] ガエタノ・コンプリ,『ミッション・スクールに入ったあなたに』,ドン・ボスコ社,1988
- [6] 和田幹男,『聖書 Q&A 新約編』,女子パウロ会,1990